

カトリック 仙台教区報

2003年10月26日 No.154

発行
カトリック仙台司教区

〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-12

Tel (022) 222-7371 Fax(022)222-7378

発行責任 広報委員会

URL ; <http://sendai.catholic.jp/>

188名日本殉教者列福運動について

仙台教区 司教 溝部 脩

カトリック新聞で報道された通り、日本司教団は188名日本殉教者と高山右近の列福を推進することを決定しております。私は今回その推進者として司教団より選ばれ、今後ローマとの交渉をする役割を持ちました。その目的で9月5日より11日までローマに滞在し、関連のある役所と人々に精力的に会って、運動を一步步進めることに成功しました。

列福、列聖はバチカンの「聖人聖省」(Congregatio pro Sanctis) というところにかかっています。その省の長官はサライヴァという枢機卿です。浜尾大司教様の紹介でアポイントをとり、同省を訪れ、約1時間半日本の列福のことについて話すことができました。日本から歴史の資料は送られているのであって、今必要なのはそれを要約して印刷に回すことができる本(Posito)だけだということです。その「Posito」を関係のある識者に回し、彼らがそれを読んで聖人であるかどうかの評価を下すのです。約

50人の識者にそれが回されます。今日日本で必要なことは、殉教者を称える運動を大きくすることだとの結論でした。その地域に知られていないと列福するのはむづかしいと、こんこんと諭され



ドミニコ会雪の聖母修道院の聖母像

彼を通して識者に配られます。識者がいかにそれを早く読んでくれるかが、今後の一番の課題です。彼らを急がせるために再度何かの形でてこ入れをする必要があります。Relator はエセルというドミニコ会の司祭です。彼は列福聖省に勤務しております。彼を表彰訪問し、識者への配慮と早めにとを進めて貰えるように依頼しました。

同時に日本の方からは多くの情報を発信する必要があります。そこでバチカン放送の日本語課を訪問しました。日本司教団はバチカン放送を通して、果たして広報したいのかどうか分からないというぼやきを聞きました。列福聖省でのぼやきと全く同じでした。申請はしたけれど、それを押して実現に向けるという意志が見られないことです。これは大いに反省させられました。日本教会から多くの情報をローマに送る必要があります。

今年度中に教区担当者の集まりを企画しております。日本内で殉教者への尊崇が広まらない限り列福はあり得ないからです。

塩と光

「あなた方は、キリストを見たことがないのに愛し、今見なくても信じており、言葉では言い尽くせないすばらしい喜びに満ち溢れています」(1ペトロ1、8)。

このような信仰を実際に体験しているなら、きっと自然にキリストをあかし出来るのではないのでしょうか。もし今日特に若い世代に信仰が伝わっていないとするならば、結局この信仰の根本的体験が乏しくなっていることに最大の原因があると思います。パウロもキリストとの信仰における出会いがどんなにすばらしいかを告白しています。「わたしの主イエス・キリストを知ることのあまりのすばらしさに、今では他の一切を損失とみえています。キリストのゆえに、わたしはすべてを失いましたが、それらを塵ちりあくたと見なしています」(フィリピ3、7、8)。まだキリスト以外のものに頼り執着しているなら、キリストをあかしすることは難しいです。ですから、キリストを伝えることができるために共に信仰を育て深める必要があります。(博)

若さと親しみに満ちた笑顔で…

川崎忠紀師 助祭に叙階

去る9月14日(日)、青森市のカトリック浪打教会で、ヨゼフ川崎忠紀師の助祭叙階式が行われました。心配された台風の後遺症もなく天候が回復し、県内各地から集まった180余名の信徒が見守る中、午後3時に叙階式が始まりました。

溝部司教の司式のもと9名の司祭団に囲まれ、式は肅々と進行し、会衆の唱和する聖歌が聖堂いっぱい響き渡りました。特に印象的だったのは、司教様が叙階式の進行に合わせ、その深い意味を会衆に分かり易く説明されたことです。また川崎忠紀師の誓約のときは、あたかも慈父が諭すような司教



様のお声の温かさに、多くの会衆が感動いたしました。式の終了後、全員が隣接する幼稚園の園庭で集合写真を撮り、祝賀会に臨みました。乾杯の後で、所属していた浪打教会から大きな足に合う靴(目録)が、教会学校からは花束が贈られました。またスカウトの子どもたちもお祝いに駆けつけ、若



さと親しみに満ちたメッセージが飛び交い、川崎師のお人柄が偲ばれるひとときでした。(日下)

助祭叙階の恵み



神学科四年 川崎 忠紀
主の平和
私、ヨゼフ
川崎忠紀は
さる9月14
日、皆様方

のおかげで助祭叙階の恵みを感じました。

午後3時より助祭叙階式のミサが始まり、入祭の歌から感じられる信徒の方々が一つになった祈りの雰囲気や、私がいままで歩みの中でのさまざまな場面で出会った多くの方々が参列してくださっているのを拝見し、胸が熱くなり一時は声が出なくなるくらいうれしい気持ちになりました。

このミサの中で司教様からは助祭叙階の恵みをいただき、また参列された皆様からは「イエス様を中心とする出会いのすばらしさ」を、あらためて実感させられる二重の恵みを戴けたことに、とても感謝しております。

たくさんの方々のこのような恵みに支えられて、これからの助祭の奉仕に精進してゆきたいと思っております。

この度叙階式に参列し祝つて下さった信徒の皆様そして神父様方、各地で祈つてくださっている信徒の皆様、厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

神に感謝

人権問題と教区の活性化を議題に

情によっては来年5月までとし、参加者を広く募つて各

「第4回仙台教区司牧評議会」

去る9月23日(火・秋分の日)、第4回教区司牧評議会が開催された。

主な議案は「人権の問題に関する件」と「第2回教区活性化のための研修会」の二つ。第一議案は、キリストの愛を証する教会である仙台教区が一人ひとりの人間(人権)を大切にすることを教区としてどう展開してい

たらいいかを探るもの。「仙台教区病者障害者連合会」の清水文雄副会長と「カトリック正義と平和仙台協議会」の渡辺清会長による活動の現状と教区のための提言、また、佐藤司教のときの人権福祉委員だった園部英俊さんと猪俣暁子さんからの提言を受けて意見交換を行った。具体的な結論にまでは至らず、司牧評議員会で受け止めて次回定例会に向けることとした。

第二議案では、研修会のテーマを「ミサへの生き生きとした参加」、時期は今年11月から事

「教区司牧評議会」は、溝部司教が着座されて新たに構成され、今回で第4回目。毎年2回、春分の日と秋分の日で開催される。評議員は県代表3名(司祭1・信徒2)と修道者代表2名、それに教区本部の4名で構成されている。(Fr.平賀)

この開催通知が役員会から各教会へ届けられる。議案審議に先立って溝部司教の挨拶があり、仙台教区の動きが話された。その一は、司祭評議会からで、「司祭不在の主日の集会祭儀」の指針を作成中であること、「小教区の再編と司祭派遣」が大きな問題であること。青少年司牧の活性化に取り組むべきことが挙げられた。その二は、教区の財政問題。教区会計は危機的状況で抜本的に見直さなければならぬこと。その三は、日本だけでなく世界の教会を揺さぶっている問題として、内的刷新、司祭養成、社会問題や人権問題などがある、と指摘された。

「愛、新しい出合いを求めて」 福島県カトリックの集い

「愛、新しい出合いを求めて」
新千年期の初めに「をテーマに、9月21日(日)、カトリック小名浜教会において、第33回「福島カトリックの集い」が開催された。



(3)
台風15号の影響で雨の降る中、午前9時から受付が始まると、福島県内の14教会から、バスや、車などを利用して、参加者が次々と到着。受付をすませ、再会を懐かしんでいる光景があちらこちらで見られる。約220人の参加者で、小名浜教会

はいっぱいになった。

10時、本大会の実現に向けて今年の3月から準備を重ねてきた「浜通り連絡協議会」会長・古田孝男氏が開会を宣言、ついで福島県カトリック連絡協議会会長・菅野明氏、実行委員長・金子力氏が挨拶。準備委員会の第1回目の会合で、出席者の心の一致から、テーマがすぐに決まっていたいきさつなどを披露。



は大きくうなずきながら熱心に耳を傾けていた。

続いて、今回の集いの主要部分である溝部脩司教の「現代より見たキリシタン時代の集会祭儀」と題する講話が行われた。慈父がやさしく教え諭すように話される溝部司教の話しに、参加者たちはメモをとり、あるいは大きくうなずきながら熱心に耳を傾けていた。



11時30分からは、会場を隣接の幼稚園に移し、昼食を共にしながら、「新しい出合いを求めてみなでしゃべんねげ」の時間。29班に分かれ、6、7人ずつのグループ討議。1時30分まで、心ゆくまで話し合った。

1時30分から溝部司教主司式によるミサ。この日の恵みに感謝し、これからも、いろいろな困難があったとしても、一致して歩んでいこうと決意を新たにしました。次回の県大会の会場・郡山で会いましょうと閉会の言葉が述べられた後、「美しきふくしま」(山田雅之作詞・作曲)を全員で合唱し、15時30分散会した。

「福島県カトリックの集い」を終えて
浜通り連絡協議会・会長 古田 孝男

福島県は会津若松地区・東北

謝している。

地区・奥南地区・浜通り地区の四地域に分かれて、毎年順番に信徒大会を行っている。今年は、浜通り(いわき市内の4教会と原町教会)地区が担当で、主としていわき地区の4教会の司祭・信徒が一致協力して行った。

当日は、2日前までの猛暑はどこへやら、肌寒い雨が降ってきて心配だった。遠いところから来られる方々は、朝早く出発しなければならなかったため、さぞ大変だったことだろう。

ともかく無事に大会を終え、浜通り地区の信徒全員で後片付けを終えて、しばしホッとしてお茶を飲みそれぞれの労をねぎらいながら、反省点などを話し合った。雨も上がり、夕モヤのかけり始めたころ家路についた。

各教会共通の悩みは、信徒の減少と高齢化で、当初は大会準備がうまく出来るかどうか心配だったが、女性の方々のパワーに助けられてどうやら乗り

切れたというのが実感で、本当に女性の方々に感

謝している。浜通りは教会の歴史も浅く、少人数ですが、団結力は強く、大会のときには力を合わせて乗り切っており、今後も女性パワーを借りてがんばって行きたいと考えている。

「追 伸」
ミサの中で、仙台教区の神学生のために献金を頂きました。10万8千円集まりましたのでここでご報告いたします。仙台教区事務所にお送りし、役立てて頂きます。
▲写真は実行委員たち



創立の理念生かし、発展を祈る

郡山ザベリオ学園創立70周年

9月20日(土)、郡山ザベリオ学園創立70周年記念式典が郡山西部体育館で開催された。園児・児童・生徒をはじめ、関係者約1500名が出席して、70年の歩みを祝い合った。高橋興子理事長は式

辞の中で「1930年代の暗い時代に、日本の子ども達に神の愛と希望をもたらす為に、カナダのシスターたちによって創立された学園であること、また、多くの方々の支えと協力により今の学園に発展できたこと」に感謝を表し、「理念が生きた学園になるよう、さらに努力を続けよう」と呼び



に園児の遊戯

「写真」や小

学生の和太鼓、

中学生の聖歌

合唱が披露さ

れた。最後に出

席者全員で校

歌を斉唱し、式

典を終了した。

同学園は、1

930年の修

道院設立を機

に、1932年

に幼稚園が開

園、1958年に小学校、19

64年に中学校が開校。198

7年には市内大槻町に全面移

転し、現在に至っている。

学園周辺には、広々とした田

園風景が開け、黄金色に輝く稲

が収穫の時を待っている。

まだ肌寒さの残る6月6日午前8時、青森空港より羽田へ出発。参加メンバーは、ケベック会と何らかの関わりのあった方々。青森県から16名、巨理1名、東京4名の21人と添乗員、同行司祭ガブリ神父の計23名。ガブリ神父はケベック会総

会出席のため、4月からカナダへ帰国中であった。一行は午前6時35分、成田空港よりバンクーバー経由でカルガリに向かい、そこでガブリ神父と合流。

カルガリからバスでバンフへ。

6月7日、カナ

ディアンロッキーと平原、レイ

クルーズ「写真」、レイクア

グネスを巡った。

晴天に恵まれて青空に突き

出た山々、雪の残るレイクレイ

ーズ、氷河のあるレイクアグネ

ス「すばらしい！すばらしい！」の連発であった。この雄

大な自然の中で神の創造のみ

業の偉大さを強く感じた。

翌日モンリオールのケベック

会本部を訪問。以前日本で働

かれた神父様方の出迎えを受

け、手を取り合って再会を喜び合い、まさに感動の日であった。又、お亡くなりになった神父様が眠るお墓で「冥福と感謝の祈りを捧げた。

その後、ラヴォア神父叙階50周年の金祝ミサに参列。ミサは、11名の司祭により荘厳に行われ、感激のひとつであった。

ラヴォア神父との再会は感動と喜びに加えて、宣教師への感謝の気持ちでいっぱいになった。

「いつまでもお元気で」と念

じながら本

部を後にし

た。

いよいよ

教会訪問、

サンジョゼ

フ教会。モ

ントリオール

最古のノ

ートルダ

ム・ド・ボン

スクール教会を訪問。美しい彫刻にステンドグラ

ス、エスカレーターで上がると美しい礼拝堂がいくつもあって、神の家の威厳を感じた。

次の日、ガブリ神父の故郷マスキノンジュの教会を訪問して大歓迎を受けた。一緒にミサに与り、言葉は違っている同じ信仰に生きる喜びを実感した。又、青森市に支部のある聖母被昇天修道会、トロワリビエール支部とニコレットの本部でも、懐かしいシスター方とお会いし、喜びを分かち合った。

巡礼最後は、モンモラシーの滝を見て、北米三大聖地であるサンタンヌ・ド・ポープレ大聖堂、ノートルダム・ド・カップ

教会を訪問した。

「カナダ巡礼の旅」に参加して

弘前教会 砂田 昭子



今回の巡礼は「教会訪問と出会い」を大切に、カナダの美しい自然の中で、神の創造のみ業を賛美し、感動と感謝の旅であった。

宣教師の熱意と愛に感謝の気持ちを新たに

し、「生きる喜び」を頂き、

いつまでも心に残る感動を胸

に巡礼の旅を終えた。

に巡礼の旅を終えた。

殉教者の心をたずねて

秋の親睦旅行

9月25日(木)、あけの星会(押江かつ子会長)親睦旅行に94名が参加、白河教会(信徒数250名)を訪れた。

主任司祭高橋昌神父はじめ、兄弟姉妹の方々の温かいお出迎えを頂き、共にミサに与った。高橋神父は説教で白河地方キリシタンの宣教と殉教の歴史から、鶴芝(吊し場)における三家族、13名の殉教者(大人は火あぶり、子どもは斬首)と、白河藩牢内での殉教者三家族、



6名合計七家族、22名)の信仰が、私たちの心に愛と困難に打ち勝つ力を与えて

下さっていることをお話になり、殉教者に捧げるミサが深い祈りの中で進められた。

あけの星会指導司祭・佐々木博神父は挨拶の中で、殉教は証すること、私たちは現在血を流していないが、キリストの証し人となることが出来ると話された。

白河教会の皆さんの自己紹介を頂く中で、温かく、生き生きとした信仰共同体の様子が伝わってきて、大いに啓発された。

あけの星会では、加盟している日本カトリック女性団体連盟の活動状況から、家庭を福音

化していくこと、司祭・修道者の召し出しの祈りと共に、自身の召命の意識、「いのちの運動」と、弱い立場にある子どもや女性への支援などを紹介し、来年5月開催の30周年記念長崎大会のテーマ「平和」から始まる地球の平和 について、一緒に考えてみませんか、と呼びかけた。短時間の中にも霊的交わりが出来たことは大きな喜びだった。

鶴芝、南湖、白河の関所跡を巡り帰仙、ご準備下さった高橋神父様と元寺小路教会に御礼申しあげます。(阿部正子)

追放に踏み切った。更に1613年には8名の重臣を呼び、信仰を捨てるように強要した。内3名はどうしてもその意向に添えない旨を宣言し、死刑の宣告を受けた。高橋主水アドリアノとその妻ヨハンナ、林田助右衛門レオとその妻マルタ、息子11歳のヤコブと17歳の娘マグダレナ、竹富勘右衛門レオと息子パウロの8名であった。1613年10月7日火曜日、8名は有馬の海岸まで連行され、そこに立てられた十字架にくくりつけられ、火刑を受けて殉教した。いずれも有馬家の重臣であった。

賛美の歌声高らかに

第26回聖霊による刷新東北大会

9月26日(金)、夕方から三泊三日で第26回聖霊による刷新東北大会が仙台市太白区にある茂庭荘を会場にして行われた。大会テーマは「わたしは主恐れるな あなたはわたしのもの」。東北・関東地区はもとより、北は札幌、南は下関から、プロテスタント教会の人々も交えて約百人が主を賛美し祈り合うために集まって来た。イエズス会の裏辻洋二神父の全身から湧き出てくる講話と祈りの体験は、参加者一同に神の力を感じさせるものがあった。溝部司教のミサ、説教を通して私たちはどれ程励まされ、深い祈りと愛の奉仕へと駆り立てられたことか。



洗礼と堅信によって聖霊を受け入れたクリスチャンは、さらに信仰を活用し、力を体験し出していかねばならない。ミサ後、全員が会場いっぱい大きな輪になり、手をつないで賛美と感謝の歌を高らかに歌い、喜びに満たされて「来年もまた」と力強く再会を誓いあい、盛況のうちに大会の幕を閉じた。(Sr.中島)

<シリーズ>

188名日本殉教者列福の推進

高橋主水アドリアノと他の7名

有馬の殉教者

溝部 脩

1612年、幕府は天領に禁教令を發布した。これにすぐ反応して迫害に踏み切ったのは、皮肉にもキリスト教が一番盛んであった島原半島であった。領主の有馬直純は保身の政策をとり、幕府の威光におもねるべく、まず家臣の



マグダレナは若い身を貞潔の誓願で神に捧げていた。ロザリオの祝日にあたっては殉教であるので覚えやすい。(図は「不思議のメダイ」ホームページより)

祝・創立150年・日本宣教70年

聖母被昇天修道会青森修道院

聖母被昇天修道会青森修道院（青森市浪打）は、8月15日（金）聖母被昇天の大祝日に、修道会創立150周年、日本宣教70周年記念の祝いを青森

～希望のうちに新たな一步を～

明の星
高等学
校で行
われた。
仙台
教区長
溝部脩



司教と5人の司祭によって捧げられた感謝のミサには、県内教会、修道会、学校の関係者が多数出席し、喜びを共にした。カナダで創立された本会は、教育を通して、神の愛を知らせる”をモットーに青森県、埼玉県で使命を果たし続けている。

式典は、ミサを中心に進行し、ミサ後に休憩を挿んで150

歩を踏みはじめた150年であってほしいと願っている。

（Sr.井上）

美しい歌声 大聖堂に響く
仙台で 典礼音楽研修会

10月11日（土）、

仙台中央地区主催による典礼音楽

楽研修会が開かれた。これはオルガニストたちが演奏の技術だけでなく典礼音楽も研修し、よりよく典礼に奉仕したいと、対象を一般の信徒にも広げて開催されたものである。



10月11日（土）、仙台中央地区主催による典礼音楽楽研修会が開かれた。これはオルガニストたちが演奏の技術だけでなく典礼音楽も研修し、よりよく典礼に奉仕したいと、対象を一般の信徒にも広げて開催されたものである。

次に、男声合唱団

東海メールクワイヤー（名古屋）＝写真・右の人物により、典礼聖歌集でTSの略番号で知られる作曲家高田三郎氏（1913-2000、1992年にローマ教皇から聖シルベスト口騎士団長勲章受賞）の作品の中から、第1部はミサの典礼の順に従って「谷川の水を求めて」ほか8曲、第2部では「たて

美しい歌声 大聖堂に響く
仙台で 典礼音楽研修会

る。詩篇は旧約時代以来、神様への賛美と感謝として唱えられ、詩篇を唱えることはタミード（ヘブライ語で「絶えず」、「すべて」の意で、燃焼の様性を捧げる礼拝）として神殿における朝晩の礼拝の間歌われており、イエスもまた教えの中でしばしば詩篇を引用された。として聖務日課やミサの中でよく歌われる詩篇の重要性を話された。

このあと、平賀徹夫神父が主司式する歌唱ミサが行われ、東海メールクワイヤーの須賀敬一氏の指揮、同合唱団の木島美紗子さんのオルガン演奏＝写真・左によりすすめられた。出席した人々は、聖歌の本格的な歌い方を教えられ、それを聴き感激し、また、心からミサに参加したいという気持ちを抱いて帰路についた。

（佐藤英樹）



各地から

青森 黒石教会

黒石教会は、青森県津軽の小さな教会です。

信者さんは、14人です。信者の方は熱心で、信仰深く、よく祈ります。

教会の建物は、ケベック外国宣教会のカーロン神父の設計で、メチビエ神父が42年前に建設したものです。とても可愛らしく、機能的です。

御聖堂には40人くらい入り、隣には12人が食卓に座れる伝導館があり、コーヒを飲んだり、打ち合わせや話し合いをするのに快適な場所です。

自慢出来る事は(？)司祭不在の日曜典礼かな...

司祭が足りない時代が間もなく来ると予想していたので、2週間、担当者養成講座を開き根本的な神学。知るべき聖書学。覚えるべき典礼学。司祭不在日曜典礼の方針とテクニク。

実施訓練。

その後、試験。(それは、自信をつけるためで、全員が全問正答で合格)

奉仕者5名が直接満部司教様から任命された。

昨年5月から、ローテーションを組んで、月一回、司祭がい

ない日曜日の典礼を担当しています。今のところうまくいっています。

どうぞ皆さん遊びに来てください。大歓迎いたします。

(Fr.工ノ)

岩手 志家教会

9月21日(日)、盛岡志家教会に大船渡・釜石・遠野・宮古教会から80名の信徒が集まり交流会が開催された。

始めに二人の司祭によるミサが行われた。その後、昼食時には大船渡の教会の皆さんに



よるケセン語の「主の祈り」と「典礼聖歌」が歌われ、和やかな雰囲気の中に当日の目玉である志家教会オリジナルのゲーム「キリスト者の道」"写真"をした。これは、主の降誕からスタートし、神の国に入るまでのチーム対抗双六ゲームですが、要所要所に「聖書」や

「悪魔」のポイントがあり、「聖書」の箇所では、聖書に関する種々の質問が出され、「悪魔」の箇所では色紙で作った角を頭につけたり、大きな耳や長い爪をつけたりして、悪魔に変身する指示が待ち受けている。質問に四苦八苦し、信徒会長が悪魔に変身した姿に大笑い。神の国目前で逆戻りの指示にチーム全員が大声をあげてガツカリするなど、普段あまり見ることの出来ない屈託のない笑顔と出会うことが出来た。

従来の交流会にはない型破りな会ではあったが、キリストつながりの共同体として、鎧をまとわれない心の通った一つの家族としての良い時間を持てた。(飯塚)

宮城 白石教会
白石教会のシンボルは桜の花でしょうか。教会の創立とほぼ時を同じくして植えたという、この二本の巨樹は、毎年春になると、ゆらゆらと美しい花を咲かせ、道行く人も私たちをも心豊かに楽しませてくれます。今日までの教会の日々を静かに見守り、立ち続けているかのようにです。

私たちの教会も高齢化を迎えました。今はそれぞれが自分出来ることをして、心を一つに合わせ、祈り、守っていると



ころです。

三年前に、献堂50周年を祝い、翌年に記念誌の発行、そして、天を目指す旅人である私たちに、この春、しばしの安らぎの場とこの世に生きた証し、記念の碑、共同墓碑"写真"が与えられました。尊いご厚志を頂戴してのことですが、蔵王に向かうならかな斜面、自然石にぶどうの実と詩編23 6が刻まれています。常にさざめき合い(祈り合い)、食べ合いの私たちがいつの日か、ここが居心地よくて長居してしまうのではと、神父様は今からご心配の様子です。(佐藤)

福島 野田町教会

JR福島駅西口を出て大通りをまっすぐ西に(天気がよければ吾妻連峰が見えます)向か

って進むと徒歩約10分で右手に鬱蒼としたヒマラヤ杉に囲まれた教会が見えてきます。同じ敷地内に幼稚園が併設されています。手前がデニーズなので、初めての方でもまず間違いないかとどりに着くことができます。

献堂式は1964年で、聖マリアの汚れなき御心に捧げられました。窓には、ドミニコ会士カルペンティール神父様の製作になる十字架の道行きのためのステンド・グラスがあります。



福島地区にできた最初の教会、御山(おやま)教会が信天山(しのぶやま)の山麓に開設されてから100周年の記念事業の準備を、隣接した松木町教会および二本松教会とすすめています。

また、トマス神父様(ドミニコ会士)の指導のもと、ロザリオ一連運動に取り組んでいきます。(佐々木)

女子高生との交流

一本杉教会 文化祭に参加

教会に隣接するカトリック

学校との交流を
深めようと、8
月31日(日)、
聖ウルスラ学院
中・高等学校(高
橋秀樹校長)の
文化祭に参加。

当日は集会祭
儀を終えてから、
二つの教室を借
りて、「こんにち
は、隣の教会です」と題して出
展。絵手紙・折り紙・ビーズ細
工・ロザリオ作り・しおり作り



カトリック学校
の隣にありながら、
生徒たちにとって
なじみの薄い教会
ではいけないと、
昨年から、文化祭

に参加。二年目とあって、生徒
たちも気軽に立ち寄り、熱心に
製作に取り組むなど、交流の成

私の気分転換

平岡さち子(東仙台教会)

ミサの途中、聞きなれた小
さい子どもの声を耳にしまし
た。子どもの声は神様との対
話といつも思っています。小
さな手を合わせ、祈る姿、小
さくて言葉にならなかつたの
が、一週間後には自分の意思
をはっきり伝えるように成長
する姿に、つい顔もほころん
できます。

今日ミサの派遣の時に出た
言葉「アア、楽しかった」な
んとすてきな言葉でしょう。
今日の福音に「子どものよう
に神の国を受け入れる人でな
ければ、決して入ることが出来
ない」。

ミサの中で ちゃんは神
様と、どんな対話があったので
しょうか。その姿に、私の心(気
分)は「ルンルン」。

神様の恵みを感じたひとと
きでした。

などを中高生と一緒に行った。
又、隣の教室では、ビデオ鑑賞
や、「いつしよに歌おうコーナ
ー」で、フォークソングや聖歌
を歌った。さらに、
講堂では、生徒た
ちとフォークダン
スを踊り楽しいひ
とときを過ごした。

果も徐々に現れてきた。「卒業
前に一度教会に行ってみよう
と思った」と、ミサに参加して
くれた生徒もいて、「隣の教会」
の存在感をもっとアピールし
ようと、信徒一同来年の参加を
も楽しみにしている。(岩井)

活動紹介

日本カトリック看護協会

(JCNA)仙台支部

(会員は主に、宮城、岩手、青
森、山形、福島在住です)

JCNA全国大会(H15年
10月17日、18日・於仙台市)

を控え、その準備におわれてお
ります。この大会は、北は北海
道から南は鹿児島までの全国のカ
トリックナースが集い、カトリ
ックナースとしての分かち合
いを行います。

今年度の活動計画及び活動
状況は次のとおりです。

年間計画
養護老人施設訪問、介護老人
福祉施設訪問、光ヶ丘スベルマ
ン病院マリア祭実施、救護班の
派遣(宮城県信徒大会)、黙想
会などを計画しています。

今年度の活動状況
今年度前期はJCNA仙台

大会の準備に活動が集約され
ています。大会準備を進めつつ、
JCNAのPRのための広報、
月例会の実施、仙台支部だより
の発行、救護班の派遣(宮城県
信徒大会)、バザーの実施(計
3回：大会準備のため)を行
いました。11月には黙想会が予
定されています。

共同の支援に感謝し、聖霊の働
きに感謝
JCNA仙台大会の準備に
あたり、カトリック共同体や宮
城大学学生、パストラルボラン
ティア、ガールスカウト、その
他多くの方々の支援を受けて
おります。これらがJCNAのPRにも繋がっている
事に心から感謝いたします。

修道院紹介

大阪聖ヨゼフ宣教修道女会

仙台修道院は東仙台教会の
横の坂道を登った緑に囲まれ
たところにあります。よく笑い
よく食べるシスター7名が、司
教館奉仕・幼稚園・保育所で働
いています。

ヨゼフ会は1948年の創
立以来、教区の要請に答えて、
様々な使徒職において、祈り活

動しています。

ヨゼフ会を理解するキーワ
ードは「大司祭イエス・キリス
ト」と「聖ヨゼフ」です。ヨゼ
フ会のカリスマ(使命)は、「大
司祭イエス・キリストに自己を
奉獻し、その永遠の司祭職に奉
仕すること」だからです。

聖ヨゼフは、生涯の中で考え
てもいない出来事がおこるた
び従順によって応え、救い主の
守護者として忠実に生きられ
ました。私たちは、聖ヨゼフの
精神をもって、イエス・キリス
トに奉獻し、司祭職に奉仕する
ことを目指しています。つまり、
聖ヨゼフの黙々とした生き方
で人と神のかけ橋を目指して、
祈り働いているということな
のです。

様々な教区の奉仕をさせて
いただいている私たちですが、
必ず教会のすぐ近くに修道院
があり、教会とともに歩んでき
ました。これからも、小さな力
でコソコソと、教区のため、地
域のために祈りつつ、皆様と
ともに働きたいと思っています。
よろしくお願いいたします。

(Sr.川水)